

人体は、彫刻において最もポピュラーな題材の一つであり、古くから現在に至るまで、多くの作家たちにより人体彫刻が作られてきました。人体彫刻を構成する要素は、表面（質感）、色、素材、量感（ボリューム）、バランスなど多岐にわたり、また表現の面でも、テーマに応じた形態、動きや感情表現など、様々な要素が組み合わさって一つの作品を形作っています。ここでは、3人の作家による人体を表現した彫刻作品を、それぞれ異なる要素の視点から紹介します。

メッシーナの作品は、顔や手足を省略した胴体だけの像（トルソ）の形で女性の体を表現したものです。全身に水が流れ落ちたような跡がつけられており、一見傷のようですが、むしろトルソの美しさを際立たせているようです。マスケリーニの「イカロス」は、ギリシア神話を題材にした作品です。翼をつけたイカロスが空高く舞い上がるイメージを、上昇していくような鋭い形態によって表しています。フィノッティの「アヌビス1」はジャッカルの頭をもつ人物などの姿で表現される古代エジプトの犬神を表現しています。素材に用いられた黒い大理石が、作品に神秘性を持たせています。

それぞれの作家が生み出す人体表現の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	材質
1	フランチェスコ・メッシーナ	1900~1995	女の大トルソ	1970	168.5×48.0×32.5	ブロンズ
2	マルチェロ・マスケリーニ	1906~1983	イカロス	1956	220.0×40.0×25.0	ブロンズ
3	ノヴェットロ・フィノッティ	1939~	アヌビス1	1988-89	177.0×147.0×53.9	黒大理石

パブリックゾーン

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	材質
1	奥村 良弘	1936~	岬	1960 (昭和35)	25.1×21.0×16.5	ブロンズ
2	ヴェナンツォ・クロチェッティ	1913~2003	水浴の女性	1978	165.6×107.8×70.2	ブロンズ